

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上落合小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>令和5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、市平均を大きく上回っている。しかしながら、問題文をよく読まずに問題に取り組んだためであろう誤答がみられる。<指導上の課題>児童自身による、解答の見直しの仕方の指導が不十分である。</p>	<p>検算や見直しのポイントについての指導を徹底するとともに、必ず答えを見直すよう教師の声かけも行う。今後は、教科書の適用問題を解くことで基礎・基本の定着を図るとともに、スタディサプリやドリルパーク等のコンテンツを用いて、習熟度に合わせた問題に挑戦する機会を増やすことで、学習意欲の向上を図りたい。【単元に1度以上実施】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>令和5年度さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、市全体の平均を大きく上回っている。しかしながら、題意を捉えられず解答できない(誤答)様子がみられる。<指導上の課題>授業において、児童が題意を捉えているかを確認する時間の確保が不十分である。</p>	<p>問題のどの部分が立式や解答に必要なかを理解して読むことができるよう必要な線を引きたり、単位等に丸印をつけたりして視覚的に捉えやすくする。特に「もとにする量」の考え方を系統立てて指導することで、倍や割合、単位数あたりの数についての考え方を確実に身に付けられるようにする。過去の全国学力状況調査や市学習状況調査において出題された問題に取り組む時間を確保する等、出題の意図を的確に捉えられるようにしていく。【単元に1度以上実施】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語科・算数科ともに、知識・技能のどの領域においても市全体の平均を上回る結果となった。学校以外でも家庭学習等で繰り返し問題に取り組んでいる児童が多いことが結果につながっていると考えられる。しかし、算数科では、「変化と関係」が他の領域より正答率が低い。これは、第4学年から学習する「割合」や「比例関係」でつまづき学習調整できていない児童が多いのではないかと考えらえる。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語科・算数科ともに、思考・判断・表現のどの領域においても市全体の平均を上回る結果となった。学習に粘り強く取り組んでいることが結果につながったと考えられる。しかしながら、市全体の平均と同じように、知識・技能に比べると思考・判断・表現の平均が低いため、問題を解くだけでなく、なぜそうなのかを思考させ、自分の考えをアウトプットする活動を授業で効果的に取り入れていく必要がある。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	<p>検算や見直しのポイントを指導することができている。基礎・基本を習得させるため、練習問題等を繰り返し取り組むことでできている。今後は、習熟度別の問題に挑戦する時間をさらに確保する。</p>	特に変更なし
思考・判断・表現	B	<p>算数科において学年の発達に合わせた、題意を捉える手立てについて指導することができている。今後は、倍や割合、単位数の考え方が定着できるよう指導する。</p>	特に変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)